



連載

## 次代の農業を担う 23

栃木県農業大学校生のチャレンジ

# 祖父母の農地を継承していちごを栽培するぞ



私は幼い頃から祖父母の家が近かったこともあり、よく遊びに行っていました。両親は会社勤めでしたが、祖父母の営む農業を見てきたことで、農業を身近に感じました。中学生になると祖父母の家の農業を継ぐ人がいないことを知り、祖父母が汗水流した農地を自分が引き継ぎ、農業をやりたいと思うようになりました。

那須拓陽高等学校では農業経営科に入学し、農業について学びました。祖父母の家は水稻専作経営をしていたので、当初は私もそのまま専作経営をしようと考えていましたが、調べていくうちに今の

水田面積では厳しいことを知りました。水田を利用して儲かる農作物はないか、限られた面積で採算性のよい農作物はないかと考えた末、いちご栽培にたどり着きました。いちごは水稻に比べ小面積で安定した利益を得ることが可能です。なにより栃木県が力を入れて

いる品目であるため、新規で就農するにあたりふさわしい作物と考えました。いちご農家になるため、高校卒業後は栃木県農業大学校に入学しました。実習ではいちごを専攻して新規就農するための栽培技術と経営について学んでいます。管理機やトラクターの運転など農業を営むために、必要なさまざまな知識や技術を身につけることができました。今は新規就農するために栽培予定ほ場の確認や資金などの就農計画、卒業後予定の先進農家研修準備を、地元農業振興事務所の方に相談するなど就農に向けて取り組んでいます。



(園芸経営学科 野菜専攻 室井 春輝)

栽培開始直後の規模は、20ア